

「未来への翼」ドイツ研修



有機野菜農家で農作業体験。玉ねぎの選定を一つひとつ手作業で行いました



ワインの産地として有名なブリーツィンゲン村にて、現地村長の案内でブドウ畑を見学しました



あゆか
菅野 鮎香さん
(飯館中2年)

「ホームステイ先の家族がフランスにも連れて行ってくれました。外国での農作業体験が楽しかったです」

ドイツでは、有機栽培農業や再生可能エネルギーなどの学習に加え、ホームステイで異文化交流を行い、日本とドイツの違いを肌で感じました。いたてっ子の夏には、子どもたち一人ひとりのがんばりと、多くの人の温かな支えがありました。学びの夏で成長した子どもたちに、大きな拍手です。

将来を担う村の子どもたちが、村に寄せられた義援金「いたてっ子未来基金」を活用した中学生派遣事業「未来への翼」に参加しました。今年、7月27日から8月5日まで14人の中学生(団長・和田節子飯館中学校長)がドイツを訪ねました。

学びから成長へ いたてっ子 夏の宝物

中学校「夏の学習会」



参加した生徒一人ひとりに対して、丁寧に、家庭教師のように個別指導がありました



上智大学生からの直接指導。今後の学習に活かせる「学習のコツ」を教えました



夏休みだからと、休んでばかりはいません。中学校では、上智大学の学生による学習支援など「夏の学習会」を行い、充実した学習をしました。ふくしま駅伝飯館村チームは裏磐梯で合宿を行い、中学生の候補選手が早朝から走り込みました。プール開放事業には、学童保育の児童や一般参加者が来場し、水泳を学びました。夏のがんばりできつと、できる自分を発見したでしょう。

ホームステイ先家族の皆さんにも支えられたドイツの旅。異国での貴重な体験です



牛や山羊の餌やりなど、ファームステイで農作業を体験し、自然と共存することを学びました



泳ぎが苦手な子どもを対象に、インストラクターによる水泳教室も開かれました



ふくしま駅伝に向けて、候補選手が合宿に参加。チームの団結力も強化されました



「未来への翼」ドイツ研修

プール開放事業

ふくしま駅伝 合宿